

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月21日

協議会名: 羽島市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
岐阜羽島バス・タクシー 株式会社	東・はしまわる線	・行政と民間事業者が連携し、公共交通の利用促進を図ることができた。 ・デマンド型交通の実証実験より取得した利用履歴等のデータから、市民の移動実態を把握することができ、今後の公共交通サービスの検討材料を収集することができた。 ・評価指標を含め分かりやすさに配慮した次期地域公共交通計画素案を作成した。 ・公共交通への関心を高めるため、鉄道や民間事業者の幹線バスを含めた公共交通のPRの実施を次期計画の事業として盛り込んだ。	A 事業は、計画に基づき適切に実施された。	A 【目標】年間利用者数 目標値:8,380人 実績:9,108人 [要因]特別支援学校の通学利用が増加したことでコロナ禍前の水準を上回り、目標値を達成した。	・コミュニティバスのさらなる利便性向上を図るため、地域の移動ニーズに対応した路線の運行や、往復に利用しやすいダイヤの設定等の見直しを行う。 ・民間と連携した地域公共交通確保の可能性や、定時定路線以外(デマンド型交通、公共ライドシェア等)の新たな運行方式導入の可能性を検討し、地域にあった運行サービス導入に向けた研究を行う。 ・市民の公共交通への関心を高めるため、各地域の方が公共交通を利用する際に必要な情報に絞った地域別マップ(時刻表、路線図等)を作成するとともに、引き続き出前講座や中学校等の進路説明会での情報提供、イベントでのPR活動を行い、公共交通の認知度向上に努める。
	西・はしまわる線		A 事業は、計画に基づき適切に実施された。	B 【目標】年間利用者数 目標値:6,600人 実績:6,464人 [要因]コロナ禍の影響で最も落ち込んだ令和3年度からは20%程度増加したものの、市民病院の乗降者数の低迷が続き目標を達成できなかった。	
	中・はしまわる線		A 事業は、計画に基づき適切に実施された。	B 【目標】年間利用者数 目標値:15,900人 実績:15,124人 [要因]羽島温泉や商業施設の乗降者数はコロナ禍前の水準まで回復したものの、それ以外の乗降者数は回復が弱く、目標を達成できなかった。	
	温泉・はしまわる線		A 事業は、計画に基づき適切に実施された。	C 【目標】年間利用者数 目標値:15,910人 実績:13,526人 [要因]羽島温泉や商業施設の乗降者数はコロナ禍前の水準まで回復したものの、それ以外の乗降者数は回復が弱く、目標を達成できなかった。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和7年1月21日

協議会名:羽島市地域公共交通協議会

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は 地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C 評価	【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】
■事業内容 ①現状把握及び地域ニーズ把握に関する調査 ②計画の取りまとめ ③協議会開催 ■結果概要 ①市民アンケート・高校生アンケート調査を実施し、公共交通の利用実態や移動実態の把握した。また、住民懇談会を開催し、地域の実情やニーズ等について把握した。さらに、乗降等調査を実施し、コミュニティバスの利用実態や満足度等について把握した。加えて、運転手ヒアリングを実施し、運行に対する課題等を把握した。 ②調査結果を踏まえ、具体的な目標や取り組み事業を検討し、地域公共交通計画案としてとりまとめた。令和7年1月にパブリックコメントを実施し、その結果や地域公共交通協議会での意見を踏まえ、羽島市地域公共交通計画を策定する見込みである。 ③令和6年6月に調査概要及び計画策定スケジュールを協議 令和6年10月に計画骨子案を協議 令和6年12月に計画素案を協議 令和7年2月に計画案を協議予定 令和7年3月に計画を策定予定	A	計画に位置づけられたとおり、事業を実施中	■補助対象事業名 地域公共交通確保維持事業(地域公共交通調査事業) ■事業内容 ・現状把握及び地域ニーズ把握に関する調査 現計画の目標の達成状況等の評価を踏まえ、各種統計や過去に実施した調査結果から、公共交通利用者の推移や動態等を整理する。 また、地域の潜在的な需要も含めてニーズを把握するため、市民アンケート調査、地域別懇談会やバス乗降等調査等を実施。 ・計画の取りまとめ 現状把握や各種調査結果をもとに、課題・問題点を整理したうえで、当市がめざす地域公共交通の実現に向けた目標や基本方針等をまとめる。 ・協議会の開催 計画策定に向けた調査等を踏まえ、目標や基本方針等、今後の地域公共交通計画を協議するため、交通事業者、有識者、公募委員等で構成する協議会を開催する。 ■実施時期 令和6年4月～令和7年3月(予定)

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月21日

協議会名:	羽島市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	羽島市は、市の中央部に県内唯一の新幹線駅である岐阜羽島駅を有し、「岐阜県の玄関口」としての役割を担っている。また市内には、岐阜羽島駅を交通結節点として、広域的には名鉄竹鼻線・羽島線、名阪近鉄バス羽島線や海津市及び輪之内町のコミュニティバスが、地域内では羽島市コミュニティバスが運行されている。 高齢化の進展に伴い、都市間移動や日常生活の足として、商業施設・医療施設・公共施設等へのアクセスの確保が一層重要となるため、公共交通の確保・維持に対する取り組みを進めていく必要がある。 [羽島市地域公共交通計画の目標] 『人と暮らしをつなぎ、みんなで支えあう地域公共交通体系の構築』 [同計画の期間] 令和2年度～6年度 [基本方針] ① 地域の日常生活を支える公共交通サービスの確保 ② まちづくりと連携した公共交通ネットワークの形成 ③ わかりやすく誰もが利用しやすい環境の整備 ④ 多様な主体との連携による交通まちづくりの推進

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月21日

協議会名:	羽島市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業(地域公共交通調査事業)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	当市の公共交通機関は、当市のコミュニティバスのほか、周辺市町(海津市・輪之内町)のコミュニティバスや羽島市と大垣駅を結ぶ唯一の公共交通機関である名阪近鉄バスの羽島線が東海道新幹線岐阜羽島駅で接続しており、鉄道では岐阜・名古屋方面にアクセス可能な新羽島駅と笠松駅を結ぶ名古屋鉄道竹鼻線・羽島線が運行されている。 当市コミュニティバスは、買い物や通院等の日常生活の移動手段の確保やまちづくりと連携した公共交通ネットワークの形成等の基本方針のもと、平成28年4月に岐阜羽島駅を起点とする路線に再編した。 商業施設や医療施設へのアクセスを確保し利便性が向上された一方で、運行便数の兼ね合いによる復路の不便さが課題となっている。 高齢化の進行に伴う移動制約者の増加が見込まれる中、日常生活基盤施設へのアクセスは一層重要となるが、運転手不足や燃料費の上昇等による運行経費は年々増加しており、収支状況は悪化している。 このような中、持続可能な公共交通を構築するとともに、日常生活に即した効率的な公共交通を形成していくことが必要となっている。 運行経費の増加等厳しい運営状況の中、通勤・通学、買い物や通院等の日常生活の移動手段を利用者ニーズに即して確保するとともに、当市以外のバスや鉄道も含めた効率的な公共交通ネットワークの構築を図っていくこととする。 そのためには、地域のニーズや利用実態を把握して、利便性の高い路線への見直しや施策の検討が必要となる。

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

羽島市地域公共交通計画の評価等結果（令和5年10月～令和6年9月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
年間利用者数 【R6年度】 名鉄竹鼻線・羽島線 204万0,000人/年 名阪近鉄バス羽島線 15万3,000人/年 羽島市コミュニティバス 10万2,000人/年	乗り継ぎ利用の促進 コミュニティバス路線の見直し	運行事業者が記録する利用者数実績を集計	【達成状況】 名鉄竹鼻線・羽島線 183万9,101人/年 名阪近鉄バス羽島線 13万3,638人/年 羽島市コミュニティバス 9万6,084人/年 【分析】 ■名鉄竹鼻線・羽島線 コロナ禍以前までは利用者は増加傾向にあったが、コロナ禍の影響で令和2年度に大幅に減少し、その後回復しきっていない。 ■名阪近鉄バス羽島線 利用者は増加傾向にあり、令和5年度は過去10年間で最も利用者が多かった。 ■羽島市コミュニティバス コロナ禍の影響で令和2年度に大幅に利用者が減少したが、その後は徐々に回復傾向にある。	■名鉄竹鼻線・羽島線 引き続き市や交通事業者が連携し、利用促進を図る。 ■名阪近鉄バス羽島線 利用者は増加傾向にあるものの、利用の多い高校生が今後減少することが予想されることから、利用促進を図る。 ■羽島市コミュニティバス コミュニティバスのさらなる利便性向上を図るため、地域の移動ニーズに対応した路線の運行や、往復に利用しやすいダイヤの設定等の見直しを行う。	
商業施設・市民病院の乗降者数 【R6年度】65人/日	コミュニティバス路線の見直し 多様な主体との連携による利用促進策の実施	乗降調査により該当バス停での乗降車数をカウント	【達成状況】 73人/日 【分析】市民病院の利用は停滞しているが、商業施設の利用は大幅に増加した。	商業施設の乗降者数は増加していることから、引き続き需要に対応したサービスの見直しを行い、利便性の向上を図る。	
中心市街地のコミュニティバス乗降者数 【R6年度】390人/日	コミュニティバス路線の見直し J R岐阜羽島駅前広場の改善	乗降調査により該当バス停での乗降車数をカウント	【達成状況】 328人/日 【分析】 コロナ禍の影響で令和2年度に大きく減少し、その後は回復傾向にあるものの、駅や病院での停留所で下げ止まりとなっている。	岐阜羽島駅周辺のまちづくりと連携した公共交通ネットワークを形成し、にぎわいの創出やまちの活性化を図る。	
通勤・通学以外の外出頻度 【R6年度】85%	公共交通利用ガイドの作成 地域別マップの作成 Googleマップの経路検索に対応	市民アンケートを実施し、商業施設・病院・公共施設で乗降した人数を集計	【達成状況】 85% 【分析】令和元年と比較して、商業施設・公共施設への外出頻度が増加した。	公共交通利用ガイドや地域別マップ等で情報提供を行い、外出の促進を図る。	

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
主要交通結節点での乗り継ぎ利用者数 【R6年度】25人/日	乗り継ぎ利用の促進	乗降調査時に利用者に直接ヒアリングを実施	【達成状況】 15人/日 【分析】岐阜羽島駅ではしまわる線同士の乗り継ぎが減少した。	岐阜羽島駅を結節点とした運行サービスを提供するため、機能強化に取り組む。	
出前講座・乗車体験会の開催日数 【R6年度】12回/年	出前講座の開催 乗車体験会等の開催 公共交通のPRの実施 若年層に対する利用促進・PRの実施	出前講座や乗車体験会の実施した回数をカウント	【達成状況】 2回/年 【分析】コロナ禍の影響で令和2年度以降開催できない状況が続いたが、令和5年度は2回実施した。	引き続き、小学生から高齢者まで幅広い層の市民を対象に出前講座や意見交換等を行う。また、子どもが楽しめるPRや公共交通に関連した取り組みを実施し、子どもや保護者に対する利用促進を図るとともに、新たな利用者の獲得につなげる。	
コミュニティバス（自宅最寄りバス停）の認知度 【R6年度】73%	公共交通利用ガイドの作成 地域別マップの作成 公共交通のPRの実施	市民アンケートを実施し、自宅最寄りのバス停を知っているか質問	【達成状況】 52% 【分析】普段利用しない方の公共交通に対する関心が低下したと考えられる。	公共交通利用ガイドや地域別マップを作成し、公共交通の情報をわかりやすい形で提供する。	
協働・連携した取組数 5年間で5件以上	多様な主体との連携による利用促進策の実施	民間事業者との協働や多様な主体との連携を実施した件数をカウント	【達成状況】 5年間で3件 【分析】目標件数に達しなかったものの、毎年着実に取り組みを実施。	引き続き、多様な主体と連携した利用促進策を企画・立案する。	